

令和6年度

学校関係者評価委員会報告書

令和7年3月31日

学校法人ファースト学園
専門学校ファースト学園金沢校
学校関係者評価委員会

目次

I. 学校関係者評価の実施

- (1) 学校関係者評価の概要
- (2) 学校関係者評価委員会委員名簿
- (3) 学校関係者評価委員会日程
- (4) 学校側出席者名簿

II. 学校関係者評価の結果

- (1) 重点目標に関する評価・意見
- (2) 評価項目ごとの評価・意見

I. 学校関係者評価の実施

(1) 学校関係者評価の概要

学校の教育目標、計画に沿った取り組みの達成状況、学校運営等への取り組みが適切に行われたているか自己評価を行う。また学校運営等の課題について、継続的に改善を図り、その結果を公表する。

「学校関係者評価委員会」は自己評価結果の客観性・透明性を高め、設置学科に関連する企業・団体、卒業生、保護者などと学校活動に関し理解促進を図り、継続した連携協力体制を確保することを目的として組織する。委員は、業界関係者、卒業生、保護者等学校関係者から選任規定に基づき選任し「学校関係者評価」を実施する。委員会の評価結果及びの助言、意見は学校運営の改善に活用される。

この評価結果と改善への取り組みを本校ホームページに掲載する。

(2) 学校関係者評価委員会委員名簿

氏名	所属	選出区分
西川 珠紀 氏	第一学院高等学校金沢キャンパス	高等学校
坂本 博 氏		地域住民
竹田 太志 氏	株式会社C 8 L I N K 代表取締役	関係業界
中山 賢 氏	ホクショー株式会社	保護者
山下 周市 氏	日本海電化鑄造株式会社	卒業生

(3) 学校関係者評価委員会日程

1. 令和6年6月27日（木） 18:00～20:00
2. 令和7年2月21日（金） 18:00～20:00

(4) 学校側出席者名簿

氏名	所属
加藤 泰博	学校長
山上 むつき	副校長兼情報システム科・情報ビジネス科 学科長
片口 瑞穂	グローバルコミュニケーション科 学科長
南 忠志	事務局長
荒田 真一	情報システム科・情報ビジネス科 主任
羽場 和馬	広報課 主任

Ⅱ. 学校関係者評価の結果

(1) 重点目標に関する評価・意見

1. 教育内容の質向上	
	【評価】 3 【意見】 ・施策の進捗度を数値化したほうがよいのではないか。(中山委員) ・資格の取得だけでなく、取得していることと活用できることをセットとして伝えていくことで可視化にもつながるのではない。(竹田委員) ・実践的な授業の実施が行われている。インターンシップや実習への参加をもっと行っていった方がよい。(竹田委員) ・クラウドソーシングの活用、コンテストや外部交流会への参加なども行っていけばよいのではないか。(竹田委員) ・定期的な学生からの意見の汲み取りを行ってほしい。(中山委員) →定期的に学生との面談を行っているが、必要に応じて面談の機会を増やす。(山上委員) ・社会人としてコミュニケーション力の向上にも取り組んでほしい。(中山委員) ・「認定日本語教育機関」としての新たな枠組みの構築をスケジュールをしっかりと立てて行っていく。(片口委員)
2. 教育サービス環境の整備	
	【評価】 4 【意見】 ・実習に必要な校具、教具の充実が順次行われている。(竹田委員) ・学生満足度の向上のため、学生の意見を取り入れた環境整備を行っている。昨年予定していたトイレ、駐輪場、休憩スペース等を整備。(山上委員) ・実習を行う設備を導入した。(南委員) ・以前より授業に必要な環境が充実し、学生満足度も向上しているように思う。(山下委員) ・休憩スペースにより学科を超えたコミュニケーションができています。(山上委員)
3. 教職員の質向上	
	【評価】 3 【意見】 ・保護者との連携は良いと思う。(中山委員) ・別のスキルがある教職員の拡充、増員を検討してみてもどうか。(竹田委員) ・教職員が活用できる書籍や動画教材の補充なども有効。竹田委員) ・今後も職員室の整備、効率化、勉強会への参加などを行って行ってほしい。(竹田委員)
4. 広報活動の標準化	
	【評価】 4 【意見】 ・学校認知度向上の取り組みとしてラジオや、CM などメディア露出が増えてきている。(竹田委員) ・今は SNS を活用するのが大変有効。学生からの発信も大変有効だと思うので、活用していくべき。(中山委員)

	・外部交流会への露出も検討し、コンテストや展示会への出店なども良い広報活動になるのではないか。(竹田委員) ・グローバルコミュニケーション科は質のよい、レベルの高い学生の獲得に注力できている。(竹田委員) ・多文化、多国籍化を推進していく。(片口委員) ・広報活動の充実、11校の中での差別化、多国籍化の達成などができている。(竹田委員)
5. キャリア支援の強化	
	【評価】 4 【意見】 ・OBやOGへのアンケートの実施を行っている。(山上委員) →1年後、3年度、5年後などの継続率を調査しているものもよいのではないか。(竹田委員) ・強化に向けて具体的に組み組んでおり、結果に結びついている。(西川委員)
6. ガバナンスの強化	
	【評価】 4 【意見】 ・組織力強化に向けた具体的な計画がなされている。(竹田委員) ・難しいかもしれないが、内部での評価だけでなく、外部と比較した評価を行えないか。(竹田委員)
8. その他	
	【評価】 【意見】 ・AIに関する教育の強化をしていく必要があるのではないか。(竹田委員) ・スライドを用いた説明をした方がわかりやすいのではないか。(中山委員)

(2) 評価項目ごとの評価・意見

(1) 教育理念・目標	
	【評価】 4 【意見】 ・企業実習を通じて地域を理解する努力が見える。(坂本委員) ・グローバルな視点を持った人材育成については、グローバルコミュニケーション科とのシナジーや交流などがあり、学校の特色を活かした取り組みが出来ていて評価できる。(竹田委員) ・社会の変化が加速化する中、社会のニーズを理解するのは、とても大変な時代だと感じる。有識者からの意見の集約は友好的手段だと思う。(西川委員) ・ホームページには卒業生用のページがあった方がよいのではないか。(中山委員)
(2) 学校運営	
	【評価】 3 【意見】 ・課題を明確にし、改善方策も検討しているが、もう少し掘り下げた方が取り組みやすいのではないかと。方策の具体化が必要。(中山委員) ・ハラスメントを早急に対応した方が良い。(中山委員) ・教育活動の適切な情報公開については SNS の活用等も必要だと思う。ただ一方で乱立する情報ツールに対するコンプライアンスの視点において管理をどうしていくかも重要だと感じる。(西川委員) ・コンプライアンスについての整備を優先してほしい。教員の意識が学生への模範にもなる。(竹田委員)
(3) 教育活動	
	【評価】 4 【意見】 ・教育到達レベルの定量化・定数かは難しそうだが、各個人の特性やスキルを見出し、個別指導なども実施したらよいのではないかと。(竹田委員) ・資格取得率の向上が必要。(竹田委員) ・改善方策を進めるための施策を具体的に表し、実行すると改善スピードが上がると思う。(中山委員) ・何のための教育かという視点で出口を明確にすることは大切だと思う。その点について課題ととらえ改善していく姿勢がある事は、とても信頼できる学校だと感じた。また自主学習も重要だと感じる。(西川委員) ・日本語教育機関は法務省から文科省への管轄変更により申請と許可が必要になっている。そのため教育課程の編成において管轄が変わることによりさらに加速する。申請準備がまだ終わっていないので進めていく必要がある。(片口委員)
(4) 学修成果	
	【評価】 3 【意見】 ・改善方策を実施すると改善できると思う。(中山委員) ・退学者や休学者の低減に対して面接の実施などによる低減を期待する。(竹田委員) ・キャリア形成については、学生個人の意識向上と時代やニーズの調査を行い、カリキュラムに反映していったらよい。(竹田委員) ・学生とのミスマッチを減らすために入試での面接を行っている。(山上委員)

(5) 学生支援	
	【評価】 4 【意見】 ・教育面での支援や私生活面での支援、共に一般レベル以上の対応が出来ていると思う。(竹田委員) ・今後も支援をお願いしたい。(中山委員) ・非常に手厚く支援していただける学校だと感じた。(西川委員) ・卒業生が安心できる体制を整える必要がある。(山上委員)
(6) 教育環境	
	【評価】 3 【意見】 ・防災関連は今の石川県はホットワードだと思うので、この際に取り組みを進めてほしい。マニュアルについては県や市の支援や一般的なマニュアルの活用、セミナーへの参加などをしてみてはどうか。(竹田委員) ・新規のシステムの導入など常に社会のニーズにあわせてブラッシュアップすることが大切だと思う。(西川委員) ・教室としての環境は整えているが、小さなコミュニティやゼミなど様々学生が混ざって授業をする環境はできていないので順次整えていきたい。(南委員) ・現在実施している学校での避難訓練に加え、居住場所毎の避難所や時間帯による防災を周知する必要がある。(南委員)
(7) 学生の受入れ募集	
	【評価】 3 【意見】 ・今回の活動報告で使用した活動の動画やスライドなどを活用し、情報を発信してはどうか。(竹田委員) ・学生たちのSNS投稿を収集して活用してはどうか。(竹田委員) ・ホームページと募集要項の多言語化が必要。(片口委員) ・Web・TV等を利用する事が必要だと思う。(中山委員) ・場合により専門のコンサルを利用する事も検討してみてもどうか。(中山委員)
(8) 財務	
	【評価】 4 【意見】 ・定員充足率を上げ、十分な財源確保を行っていけば財務基盤が安定するようなので広報等で定員に達する努力をお願いする。(岩井委員) ・財務基盤の安定化と定員充足率の向上を目指してほしい。(竹田委員)
(9) 法令等の遵守	
	【評価】 4 【意見】 ・適切な取り組みがされているように思う。(西川委員)
(10) 社会貢献・地域貢献	
	【評価】 3 【意見】 ・他学では「地域課題演習」というカリキュラムあり、ヒアリングや実習を行う場を設けてどうか。(竹田委員)

	・過度に関わりすぎる必要はないが、学生のパワーや交流を期待する風潮があると思う。(竹田委員) ・能登半島地震のボランティアなども周知したが、安全面から実施に至らなかった。(山上委員) ・評価項目の内容が適正か見直しが必要ではないか。(坂本委員)
(11) 国際交流	
	【評価】 3 【意見】 ・留学生や外国人労働者の受け入れは、当たり前になってきているので、今後活躍する学生が更けるとよいと思う。(竹田委員) ・校内でできる配信・発信から続けていく。(片口委員)
(12) 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	
	【意見】 ・特になし
その他	
	【意見】 ・留学生が増えたことにより刺激を受けることが多いが、課題も増えた。いい形で消化できるようにしていく必要がある。(南委員) ・改善課題を明確にし、改善していったほしい。担当を決めて具体的に進めていく必要がある。(中山委員) ・今回の画像での活動報告は非常によかった。学校の活気などは、やはり見ないとわからない。外部への発信は有効。(中山委員) ・進路決定が早くなっている。今後もどうなっていくかを注視し早めに対応する必要がある。(西川委員) ・留学生と日本人の交流やシナジーがもっと生まれるといい。留学生が日本語を学ぶのはもちろんだが、日本人が英語や他言語を話せるのは企業としては欲しい人材となる。この環境を活かしてほしい。(竹田委員)